

インターネットのミツバチ その5 リンク

中村 純

今回は国内の養蜂家のホームページを紹介した。その後も新たなホームページが登場し、この4月1日には社団法人日本養蜂はちみつ協会のホームページ <http://group.lin.go.jp/bee/> も公開された (図1)。豊富なメニューは未完の部分もあるが、広範な分野に及ぶ意欲的なものになっており、これだけで日本の養蜂関連情報もコンピュータに向えば入手できるという状況になった。

このように、多くの分野の広い範囲の情報を網羅するようなホームページは例外的ともいえる。ひとつのホームページに探している情報が何でも出ているということは少なく、そのため、ポータルサイトで検索し、その結果得られたいくつかのホームページをひとつひとつアクセスして、情報を探すとというのがもっぱら行われる情報検索の作業となっている。したがって多くの情報を持っているホームページほど利用

されることになる。

ただ、ホームページを作る側にすれば、いろいろな情報を掲載してたくさんの人にアクセスしてもらえるのはよいが、掲載するための情報を収集するには多大な時間がかかり、それをホームページとして見栄えのするものに仕上げるのはそれなりに労力も必要とされる。さらにホームページの容量が増大し、管理するのも大変だし、公開するために必要な経費も増大するかも知れない。もともと、自分の得意な分野があったり、やはり自分のホームページの特色を出したいので、ある部分の情報に深みをつけたいし、あえて不得意な分野は掲載しようとは思わない。

養蜂家のホームページでは意外なことにミツバチ自体についての情報が少ない。生産物についてはさまざまに言及しているが、特に生物学的な内容でのミツバチの記述はほとんど見られない。

内容によっては他のホームページを見た方が早いということになってしまうが、そのときに、情報の探索者に対して親切な行為として、どの種の情報がどこにあるのかを示すことができる。「餅は餅屋」のことわざ通り、確かに他の情報源が自分のホームページの来訪者にとって利用価値が高いと思えば、自分のホームページ上で紹介するとよい。実際にはホームページ上で別のホームページに移動できるように構成する。これをリンクと呼んでいる。

最終回の今回は、ホームページを作成した場合に、来訪者の便宜のために、あるいはサイト間の水平移動ができることによって、自分のホームページの情報量を増大させるためにも必要な、リンクについて取り上げる。

リンクの種類

リンクは、ホームページへの来訪者が次に移る場合の橋渡しの役割を持つ。リンクの種類はリンク先の性質によって大きく3つに分けられる。ひとつは、ホームページで提供する情報に近い筋の情報を含む関連サイトへの水平移動リンク、ホームページ開設者が選んだ多種類



図1 日本養蜂はちみつ協会のホームページ

の情報源への放射状リンク、開設者が自分の属性に応じて設定する垂直移動リンクである。たとえば、ミツバチ科学研究施設のホームページのリンクのページ（開設予定）を例に取れば、養蜂家のホームページや教育系のサイトなどミツバチ関連のサイトに張るリンクは水平移動的であり、ホームページを開設するために役に立つとかミツバチ以外の情報を集めるために便利なサイトを紹介するのは放射状で、玉川大学の他の研究室やスタッフの個人のページなどへのリンクを張るのは垂直移動ということになる。

水平移動的なリンクや放射状リンクの場合には、あるカテゴリのリンクを集中的に集めたものや、他種類のカテゴリのリンクを集めた情報サイト（リンク集）となっているものもあり、専門辞書や書棚の感覚で利用できる。

リンク設定での紳士協定

こうしたリンクは、基本的に相互の了解のもとに設定される。一方的にリンクを張って、あたかもそことの関係があるように匂わせるというのは論外である。リンクを張る場合には、相手のサイト開設者に対して電子メールで確認をとる必要があり、具体的にどのようなページでリンクするのか知らせて了解を得なければならない。

リンクの設定での基本原則はいくつかあるが、多くの場合、相手のホームページの最初のページ（トップページ）へのリンクが要求されることが多い。これは、インターネットで情報を集める人が、その情報がどこで公開されているものかを知らないままに、つまり、提供者を認識しないままになることを防ぎ、またその提供者自身や、提供者が持っている他の情報への接近を維持するために必要な約束事である。もっとも、情報量が多く、サイト内で必要な情報に行き当たるのに手間がかかるような場合にはこの限りではないこともある。

リンクの実際

リンクが充実していることが自分のホームペ

ージへのアクセスを増加させることになる場合も多い。前述のリンク集の場合、ホームページとしての価値はリンク自体にあることになるが、問題は最初に自らのホームページにアクセスさせるかにかかってくる。したがってリンクの充実が重要とはいえ、本文に当たる部分が特色を出せるようでない現実にはせっかく作ったリンクも利用されないままになる。その上で便利なリンク集としての位置づけを加えるのがいいだろう。

実際にホームページにリンクとして加えるべきホームページにはどんなものがあるだろうか。海外の養蜂家のホームページを見る限りでは、ミツバチ関連の情報をできるだけ集めるという方向性が出ている。養蜂雑誌へのリンクや行政機関、研究機関へのリンクも多くのところが含めている。

ところが国内の養蜂家のホームページには水平方向へのリンク、つまりミツバチや生産物に関する情報へのリンクが少ない。ほとんどないといってもかまわない。その代わりに地域情報へのリンクが充実していて、養蜂の観光光的な側面も伺える。実際にホームページを持っているいくつかの養蜂場は観光養蜂場としての機能を有しているので、地域の観光や振興に重点をおくのも頷ける。当施設のホームページをミツバチ関連情報用のリンクとしていただいているところも多くありがたいが、この現状はどうであろうか。

教育コンテンツへのリンク

ミツバチの情報となると、実際、日本語で公開されているホームページは極端に少ないのはご承知のとおりである。ようやく公開された前述の日本養蜂はちみつ協会のホームページなどもその点では有用であろう。これとは別に、ミツバチに関して比較的充実したものもある。小中学生向けの理科番組（コンテンツ）である。リンク先としてこうした教育コンテンツを加えるのは商売上の拮抗もないだろうし、内容的にも重複が少なくてよいかも知れない。小中学校の生徒に向けられたとはいえ、内容的には大人



図2 「ニホンミツバチ」

でも充分楽しめるものであり、利用価値は高い。のでいくつか紹介したい。

本誌にも何度かご寄稿いただいた菅原道夫氏が公開している「ニホンミツバチ」<http://member.nifty.ne.jp/smk/> はコンセプトの明確な大変に充実したニホンミツバチのホームページである。個人のホームページとしては卓越している(図2)。中にニホンミツバチ研究サークルというコーナーがあって、小中学生向けの研究テーマが示してある。ニホンミツバチの記事が多いが対比でセイヨウミツバチの関連記述もあり、また写真もふんだんに使っているので大人でも充分に見応えのあるページとなっている。(株)学習研究社が公開する小学生向けのコンテンツ「小学なぜなぜふしぎサイエンス」<http://www.wnn.or.jp/wnn-s/nazenaze/index.html> の「虫のふしぎ」にはきれいなイラストつきで「ミツバチはどうやって蜜(みつ)を運ぶの?」かを解説したページがある。ジャストシステムが子供向けコンテンツとして公開する「キッズランド」<http://www.justnet.or.jp/kidsland/index.htm> の「ジャストズー」には「どうぶつ大百科」というコーナーがある。ここにミツバチに関しての記載がある。いずれもかなりの労作となっており、イラスト中心で写真がないのが残念だが、子供向けとはいえそ

れなりに内容のレベルも高く充実している。特に「どうぶつ大百科」の「データファイル」は詳しい。

社団法人中央畜産会 <http://cali.lin.go.jp/> が公開する有用家畜紹介コンテンツである「畜産ZOO鑑」<http://group.lin.go.jp/data/zookan/index.html> にもこれから特用家畜のひとつとしてミツバチのページが入る予定である。

ブラウザ上の充実

また、ホームページをもっぱら見るという立場の場合には、有用なサイトを、「ブックマーク(NetScape Communicator)」あるいは「お気に入り(Internet Explorer)」に登録して、自分のブラウザで簡単に必要なホームページやコンテンツにアクセスできるようにしておくのが望ましい。最近のブラウザソフトはこの点が充実し、マイクロソフト社の Internet Explorer も新版(version 5.0)からこの部分を細かく編集できるようになった。カテゴリごとに分けておくことで、有用なリンク集なみに使いやすく設定でき、一度登録してしまえば、必要な情報を見たいときにいちいち検索しなくても情報にアクセスできる。

さらに、こうしたアドレス情報を単純なテキストファイルで保存しておくだけでも有効である。ワープロソフトやテキストエディタソフトの大部分が URL や Email アドレスを識別して、アクティブにし、クリックするとブラウザや電子メールソフトを起動できるようになっている。そこで、有用なアドレス集をテキストファイルで作っておき、必要に応じて起動することも可能である。またこれをブラウザで閲覧できるように HTML 形式のファイルで保存し、上記のブックマークやお気に入りに入れておくのも便利である。

次ページには、ミツバチ科学研究施設のホームページでリンクを試みる予定のホームページをあげてみた。養蜂生産物の販売会社などを含めて、実際には膨大な数に上るが、公開している情報の利用度の高さから一部を抜粋した。現

在のところ、相手側の了解を得ていないものも多いが、参考にさせていただければありがたい。

主な推奨リンク先

行政機関・自治体・関連研究機関

社団法人日本養蜂はちみつ協会（完成すれば日本の養蜂のすべてはここでわかる）

<http://group.lin.go.jp/bee/>

農林水産省畜産試験場育種部みつばち研究室（最近の研究を紹介）

<http://ss.niai.affrc.go.jp/JIS/IKUSYU/bee.html>

岐阜県養蜂（近代養蜂発祥の地「岐阜県」が紹介する日本の養蜂）

<http://www.pref.gifu.jp/s11437/mitubachi/index.htm>

奈良県養蜂（ハチミツレシピなどを紹介）

<http://cali.lin.go.jp/nara/youhou/hyousi.htm>

教育系サイト

株) 学習研究社「小学なぜなぜふしぎサイエンス」(本文参照)

<http://www.wnn.or.jp/wnn-s/nazenaze/index.html>

Just Zoo どうぶつ大百科ミツバチ（本文参照）

<http://www.justnet.or.jp/kidsland/cm/zoo/ae/a97-04s/xaetop.htm>

JST サイエンスくるくる（学術振興事業団が公開する理科コンテンツ。ミツバチ各部の電子顕微鏡像を掲載）

<http://s-kurukuru.jst.go.jp/>

「ニホンミツバチ」(本文参照)

<http://member.nifty.ne.jp/smk/>

海外の養蜂関連団体

アピモンディア（会員各国の養蜂事情、過去の大会記録、次回大会の予告など、本誌 19（4）参照）

<http://www.apiservices.com/apimondia/apimondia-us.htm>

国際ミツバチ研究協会（関係者の Email アドレス集 Bee People が便利）

<http://www.cf.ac.uk/ibra/index.html>

アメリカ合衆国ハチミツ協会（ハチミツに関する統計資料など）

<http://www.nhb.org/>

Bees for Development（機関誌 Beekeeping & Development の紹介、書籍の販売案内など）

<http://www.planbee.org.uk/>

Apiserveices（インターネット上の養蜂普及、いろいろな情報源を集めてある）

<http://www.apiservices.com>

海外の養蜂研究機関

ベルツビル研究所（ミツバチの病気についての情報が豊富、ただし画像がない）

<http://www.barc.usda.gov/psi/brl/brl-page.html>

ロザムステッド研究所（バロア病とウイルスの関係ならこのページ）

<http://www.res.bbsrc.ac.uk/rothamsted.html>

国内の養蜂家のサイト

みつばち館（web 上の養蜂テーマパーク、本誌 20（1）参照）

<http://web.infoweb.ne.jp/morikawa/menu/top.html>

みつばち牧場～KAWAI LAND～（web 上の養蜂テーマパーク、本誌 20（1）参照）

<http://www.hyogo-iic.ne.jp/~kyoho/>

井上養蜂場（蜂針療法についても情報掲載）

<http://www2.nkansai.ne.jp/users/honey/>

埼玉養蜂（株）（まだ未完成ながら項目は意欲的、海外リンクもあり）

<http://www.saitama-j.or.jp/~yoho/document.html>

杉養蜂園（ミツバチ物語、レシピなどのコーナーあり）

<http://www-ku.magma.ne.jp/~marusu/>

椿商事（株）桑原ハニーガーデン（ハチミツを使ったレシピ集など）

<http://www.tsubaki-hg.com/>

西澤養蜂場（簡単ながら養蜂風景の写真を掲載）

<http://www.gsquare.or.jp/nishizawa/index.htm>

ビーズファーム（安藤竜二氏主催のビーズファームの取り組みを紹介したホームページ）

<http://www.tokusuru.com/bee/>

升田養蜂場（とにかく楽しい養蜂家のページ、本誌 20（1）参照）

<http://plaza8.mbn.or.jp/~msdyoho/>

海外の養蜂関連企業、個人養蜂家のサイト

アメリカ A.I.Root 社（Bee Culture 誌の紹介など）

<http://www.airoot.com/>

アメリカ Dadant & Sons 社（American Bee Journal 誌の紹介など、キャンドル画像も豊富）

<http://www.dadant.com/>

イギリス Thorne 社

<http://www.thorne.co.uk/>

Beekeepers Web Links（養蜂家がアクセスするためになる有用リンク集）

<http://ourworld.compuserve.com/homepages/Beekeeping/weblinks.htm>

Belinda's Beekeeping Spot（イギリス農務省の関係パンフレットへのリンクなどが充実）

<http://www.tdale.demon.co.uk/BeeKeeping/index.htm>

The Pollination Scene（珍しいポリネーションサイト。作物ごとに実用的なアドバイスを掲載）

<http://users.aol.com/pollinator/polpage1.html>